

平成 30 年度 奈良県知事賞

西日本豪雨

香芝市立香芝北中学校 三年 大西 陽

七月六日、金曜日。ずっと降り続く雨で、登校前、大雨警報が発令され、奈良県に住む私の中学校は休校になり、大阪の高校に通う兄も、電車が止まって学校に来られない生徒がいたため期末テスト中だったが休校になった。しかし大雨とはいっても台風が来ていたわけでもなかったのだから特に気にも留めなかったのだが、あっという間に西日本一帯が集中豪雨となり、連日テレビで報道される光景に自然の恐ろしさを改めて目の当たりにした。もし私の家に土石流が流れ込んだら…。もし私の家族が巻き込まれてしまったら…。決して他人事ではなく私にも起こりうる事だったからだ。しかも遠いところの話ではなくすぐそばで起きているのだからなおさら胸がざわざわした。

雨がやんだら今度は連日の猛暑だった。十分な水もなく、衛生的にも大変な中、避難所にいる方はどんなに辛く厳しく不安な毎日を送っているのかと思うと、エアコンが効いている部屋にいる自分が申し訳なく思った。

集中豪雨から約一週間後ニュースで「普通交付税三百五十億円繰り上げ」と流れた。私ならきっと途方に暮れてしまうだろう、あの現状をきっと少しでも手助けしてくれるニュースなのだろうということは分かったので、早速調べてみた。

「普通交付税」とは財源が不足する地方公共団体に国税の一部を「地方交付税」として交付されるものだそうだ。今回の西日本豪雨では災害対応や復旧工事の資金操りの支障が出ないように、通常は国が四・六・九・十一月の四回に分けて配っているものを前倒しで配分するという事だった。

私の父は一級建築士事務所を個人事業主として営んでいるので、普段から来年支払う色んな税金を貯金している両親の話を目にしていた。私にとって税金とは、父は土日もなく深夜まで一生懸命図面を描き、一生懸命働いた分からお金を取られるイメージしかなかった。だから税金に対していいイメージが持てなかったのだ。しかし今回の税の使われ方に、税金で困っている人を助けることが出来るんだと知り、こんな税の使い方をする日本は、素晴らしいと思った。

これからの日本では少子高齢化や厳しい財政状況が問題になっていると聞く。豊かで安心して暮らせる日本であるためには、公平な税負担とそれを公平に給付させることが大切だろう。私もいずれ仕事に就き、税を支払っていくのだからしっかりと考えていかなければいけないと思う。